



## 第 18 回 例会 報告 (11月12日)

### 【 出席 報告 】

- ・ 会員数 54名
- ・ 当日出席率 74.46%
- ・ 欠席数 16名
- ・ 前々回修正出席率 81.25%

<欠席会員>原、檜垣(俊)、平尾、平田、吉良、村上(修)、西本、大澤、佐伯、竹田、田中、矢野

[免除会員] 青野(明)、檜垣(巧)、宮本、越智

<10/29 欠席補填>(10/17 徳島)阿部、菅 (10/21 東予)田中 (10/26 今治北)岡本、吉良 (10/27 今治北)重松  
 (11/2 今治北)辰巳 (11/9 高松北)檜垣(俊) (11/10 今治南)渡辺

◇会長報告・四国ガス株式会社様を訪問しました。

## 職場訪問例会

◆青野淳一職業奉仕委員長:川上会員・檜垣(俊)会員・眞鍋会員・四国ガスの皆様、お世話になります。駐車場にご協力いただきました久米会員ありがとうございました。ロータリアンの意義として、会員がどのようなお仕事をされているかを知り、自社の事業に活かせることがないか参考にしてください。

◆四国ガス株式会社代表取締役社長 眞鍋次男様:今年6月に本店ビルが完成しましたが、旧ビルを含めて「写真でみる四国ガス本店ビルの歴史」についてお話しします。四国において台風や地震などの災害が想定される時、このビルが広域対策本部となり、各支店の対策本部に指示をします。エネルギー事業を営む当社として、新ビルは災害に強く、自然と調和をはかった省エネビルをコンセプトにしています。元々本店は共栄町にありましたが、昭和32年に愛媛県の警察職員宿舎のあったこの地を今治市から購入しました。旧ビルは基礎の下に3m前後の松杭が約500本打ち込まれていました。落成祝賀会には当時今治市長の田坂様や地区ガバナ―もされた宮崎様も出席いただきました。その後、電算機導入のため3階建てに4階、5階を増築しました。昭和61年には四国ではじめてのガス灯が復元されました。日本の都市ガス会社は元々ガス灯を灯すために誕生した経緯があります。▼新本店ビルは環境とBCP(Business Continuity Planの略で、災害や事故など不測の事態を想定して、事業継続の視点から対応策をまとめたもの)がコンセプトです。ビル全体で制震ダンパーを32箇所設置し、地震の揺れを30~40%軽減できます。10kw太陽光発電モジュールを設置し、売電はせず、日中の電力ピークカットと停電時の防災用電源として使用します。25kwコージェネレーションシステムを2台設置し、通常時は常用発電機として使用しています。停電時は非常用発電機として使用します。自立運転機能付のGHP(ガス空調機)を設置し、停電時にも自立運転機能により空調が可能となっています。コージェネレーションシステムとGHPは、都市ガスが遮断された場合は、プロパンエアー発生装置で稼働できます。省エネビルとして、自然換気システムや熱線ペアガラス、人感センサーによる照明等を採用しています。7月には「ショールームピポット今治」も1階にオープンしています。



◇施設見学:眞鍋社長にご説明いただいた屋上に設置している太陽光発電モジュール、コージェネレーションシステム、GHP、また、制震ダンパーやショールームを見学させていただきました。防災、環境に配慮されている印象を非常に強く受けました。四国ガスの皆様、お忙しい中ご協力いただきありがとうございました。

## 次回例会(11月19日)

### 【 新会員卓話 】

今週のお祝いはございません。

[ 健寿司 ]